

植物園のかたすみから【中国見聞録】

大陸的発想？

大阪市立大学理学部
附属植物園勤務 植松千代美

11月

2011年に中国河南省の鄭州(ていしゅう)市を初めて訪ねた頃、街のあちこちで高層ビルの建設ラッシュだった。中国八大古都の一つに数えられる鄭州だが、郊外に向かって新しい街が拡大していた。しかし今年十月に訪ねると街はいくらか落ち着きを見せていた。数年前に比べスツキリ感じるのは古い町並みが消えたから？と案じたが、研究所のある昔からの街区は変わっていないかった。

ひとかかえもある大きな街路樹が道の両側にならび、巨大な緑のトンネルが東西、南北に延びる、この町並みが私は結構気に入っている。共同研究者のタナさんに緑がいっぱいいいね、と言うと、今、中国では街の中に森を作る取り組みが進んでいるという。その最たるものが北京の首都機能の



一部を移転すべく計画されている新都市だという。都市計画に最初から森作りが含まれるという。

中国について様々な評価があることは重々承知、それでもこの国は凄いと思うことがある。例えば再生可能エネルギーのバイオエタノール。原料穀物をめぐり食用か、燃料用かのシェア争いが生じた時、中国政府は食糧作物以外を原料に使う道を選んだ。ちなみに日本ではお米で作ろうとしている人々がいることをご存知だろうか。

そして都市の中の森づくり。日本の屋上緑化や壁面緑化を否定はしないが、スケールが違い過ぎる。五十年先、百年先を見据えたプランを組める国に、日本はなれるのだろうか。

▲緑のトンネル